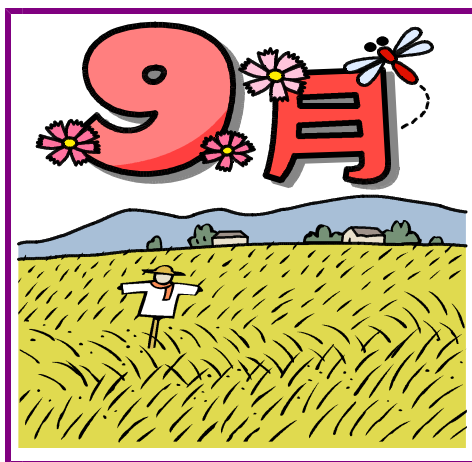


めぐみイエス・キリスト教会

2021年9月5日(日)第1主日礼拝
週報「通算第573号」



2021年標題聖句

ヨハネの福音書20章21節～22節

《イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父が私を遣わされように、私もあなたがたを遣わします。」こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。』》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌21「輝く日を仰ぐ時」 p. 28

【交読文】 No.11詩篇第32篇 p. 887

【賛美Ⅱ】 新聖歌176「イエスは汝を呼び給う」 p. 382

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.15「野に咲く花も空の鳥も」

【聖書朗読】 使徒の働き11章25節～26節(新約p. 257上段)

【礼拝説教】 《キリスト者(クリスチャン)と呼ばれ》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(使徒の働き11章25節～26節)

11:25 それから、バルナバはサウロを捜しにタルソに行き、

11:26 彼を見つけて、アンティオキアに連れて来た。彼らは、まる一年の間教会に集い、大勢の人たちを教えた。弟子たちは、アンティオキアで初めて、キリスト者と呼ばれるようになった。

●ポイント1. 「バルナバとサウロの初めての出会い」とは？

※使徒の働き9章26節～28節「聖都に戻って来たサウロ」(新約p.251)

9:26 エルサレムに着いて、サウロは弟子たちの仲間に入ろうと試みたが、みな、彼が弟子であるとは信じず、彼を恐れていた。

9:27 しかし、バルナバはサウロを引き受けて、使徒たちのところに連

れて行き、彼がダマスコへ行く途中で主を見た様子や、主が彼に語られたこと、また彼がダマスコでイエスの名によって大胆に語った様子を彼らに説明した。

9:28 サウロはエルサレムで使徒たちと自由に行き来し、主の御名によって大胆に語った。

9:29 また、ギリシア語を使うユダヤ人たちと語ったり、論じたりしていたが、彼らはサウロを殺そうと狙っていた。

9:30 それを知った兄弟たちは、彼をカイサリアに連れて下り、タルソへ送り出した。

●ポイント2. 「エルサレムを脱出したその後のサウロは？」

※ガラテヤ人への手紙1章17節～21節「シリア、キリキア」(新約p.375)

1:17 私より先に使徒となった人たちに会うためにエルサレムに上ることもせず、すぐにアラビアに出て行き、再びダマスコに戻りました。

1:18 それから三年後に、私はケファを訪ねてエルサレムに上り、彼のもとに十五日間滞在しました。

1:19 しかし、主の兄弟ヤコブは別として、ほかの使徒たちにはだれにも会いませんでした。

1:20 神の御前で言いますが、私があなたがたに書いていることに偽りはありません。

1:21 それから、私はシリアおよびキリキアの地方に行きました。

●ポイント3. 「キリスト者(クリスチアノス)、クリスチャン」とは？

※使徒の働き13章1節「アンティオキア教会の指導者」(新約p.259)

13:1 さて、アンティオキアには、そこにある教会に、バルナバ、ニゲルと呼ばれるシメオン、クレネ人ルキオ、領主ヘロデの乳兄弟マナエン、サウロなどの預言者や教師がいた。

※コロサイ人への手紙3章9節～15節「新しい人を」(新約p.405上段)

◎先週のメッセージの概要【慰めの人バルナバ】

《ルカは、バルナバの働きの大きな転換点について書き記しています。サウロの迫害によって散らされた人々は、福音を宣べ伝えながら巡り歩きました。その中には、キプロス人とクレネ人がいて、アンティオキアに来ると、ギリシア語を話す人たちにも語りかけ、福音を宣べ伝えたのです。クレネ人と言えば、主イエスの代わりに十字架を運んだシモンのことを思い起こします。ルカは、紀元48年頃のアンティオキア教会について、『アンティオキアには、そこにある教会に、バルナバ、ニゲルと呼ばれるシメオン、クレネ人ルキオ、領主ヘロデの乳兄弟マナエン、サウロなどの預言者や教師がいた。』と言及しています。この中で、ニゲルと呼ばれたシメオンこそが、クレネ人シモンと同一人物であると思われます。

さて、エルサレム教会はバルナバをアンティオキアに送ります。バルナバは教会が誕生した時には、すでに存在していました。伝承では、主イエスの公生涯初期において、使徒に選ばれた十二弟子に続く六十人の中の一人とも言われています。彼はキプロス生まれのレビ人で、本名はヨセフでしたが、使徒たちからバルナバ(慰めの子)と呼ばれていました。

また、エルサレムに戻った、かつての迫害者サウロの面倒を見たのも、このバルナバでした。所で、バルナバはなぜこの時まで、エルサレムに留まっていたのでしょうか。これは推測ですが、エルサレム教会のギリシア語を話すやもめたちを、殉教したステパノに代わって執事として面倒を見ていたのではないのでしょうか。その根拠は、『バルナバは立派な人物で、聖霊と信仰に満ちている人であった。』と書かれており、何とステパノも『信仰と聖霊に満ちた人ステパノ』と、同じ表現で書かれているのです。

バルナバは、アンティオキアの信徒たちに、いつも主に留まっているように励ましました。主に留まる事がとても大切です。私たちも、何があっても主イエスに留まらなくてはなりません。バルナバは、この地に根を下ろすこととなります。アンティオキアは異邦人伝道の本拠地となります。》

◎お知らせ

※第二主日礼拝は、平常通り9月12日(日)午前10時から行ないます。聖書勉強会・祈り会は、9月8日(水)各家庭において行ないます。